

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○生徒の主体的活動を促進し、目標達成の達成感を実感させる指導方法の工夫
 ○生徒各自が自己の課題に向き合い、適切で具体的な行動目標を設定したり共働したりできる場の設定の工夫

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員 学校長:結城 栄子 教頭:松本 和基 久保 喜昭
 田中 直美 1学年主任:仁木島 康文 2学年主任:天羽 善久 3学年主任:佐野 美樹
 研修主任:吉本 由加里

校長

結城 栄子



(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている生徒が多い。漢字・計算・英単語など毎日の課題にまじめに取り組める生徒がほとんどである。 ●一問一答形式に比べ、記述式問題を苦手とする生徒の割合が高い。また、既習の知識・技能を他の学習で生かしたり、各教科で身に付けたことを生活の場面において活用したりすることに課題がある。	・基礎的・基本的な知識・技能が定着している。 ・既習の基礎的・基本的な知識・技能を他の学習や生活の場面で活用することができる。	・基礎・基本の充実を図るために、反復練習や小テストを取り入れる。小テストで目標点に達しない生徒には、再テストや別課題を与え、定着度を向上させる。 ・授業において、ねらいや課題を明示し、振り返りや学び直しの場を工夫することで、課題を解決した達成感と、次への課題意識をもたせる。 ・他の学習や生活の場面で活用できる知識として身に付けさせるために、既習の知識と関連付けたり、組み合わせたりするなど学習内容の精選に努める。	・アンケート調査により、平日の家庭学習時間が1時間程度の生徒の割合が52%だったことがわかった。個々に合った家庭学習の内容や方法について、二者面談や三者面談などを通してカウンセリングを行う。	・全国学力・学習状況調査の知識・理解・技能問題の正答率は、79%だった。無回答率が17問中13問で3%未満だった。 ・県ステップアップテストの知識に関する問題の正答率は、73%だった。活用に関する問題に比べ、無回答率が低かった。 ・2月に実施したアンケート調査で、「基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている」と96%の教員が回答した。一方で、「授業で学んだことを他の学習で生かしている」は74%、「各教科で身に付けたことを、普段の生活の中で活用することができる」は70%にとどまった。 ・学校評価アンケートでは、「先生は、適切な量の宿題を出し、家庭学習が継続するように指導している」という質問に対して、84%の生徒が肯定的な回答をした。	・基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るために、反復練習や小テストを継続して実施する。また、朝学習で小ステップの学習を積み重ねることで、繰り返し学習する習慣を付けさせる。 ・各教科において、授業のねらいや課題の明示を徹底し、生徒が見通しをもって学習に取り組めるようにする。個々の振り返りだけでなく、他者との共有によって課題を解決した達成感や次への課題意識を高めさせる。 ・既習の知識と関連付けたり、組み合わせたりするなど学習内容を精選し、他の学習や生活の場面で活用できる知識として身に付けさせる。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペアやグループなど少人数であれば、自分の考えを発表できる生徒が多い。また、他の生徒の意見をしっかりと聞くことができている。 ●クラス全体など大きな集団の中で発表することに苦手意識を持っている生徒は少なくない。また、目的や課題に応じて資料から情報を収集したり、複数の情報を整理してまとめたり、根拠を明確にして意見を伝えたりすることに課題がある。	・目的に応じて必要な情報を選択・収集し、自分の考えを根拠を明確にして話したり、書いたりして表現することができる。 ・自分の考えを明確にもち、他者と伝え合う活動を通して、自分の考えを広げたり、深めたりできる。	・課題解決のための必要な情報を収集する力を身に付けさせるために、複数の資料を正確に読み取り、言語化してまとめる学習の場を設定する。 ・ペア学習やグループ学習を効果的に取り入れ、自信をもって自分の意見を伝える機会を増やす。また、他者の意見を聞き、自分の思いや考えを広げたり、深めたりする場面を増やす。 ・手引やモデルを作成するなど教材の工夫を凝らし、苦手意識がある生徒の抵抗感を低減させる。	・県学力向上学習プリントを活用し、思考力や表現力を養う。 ・国語力向上タスクフォースの提案を取り入れた授業を展開する。	・全国学力・学習状況調査の資料の活用問題では、選択式・短答式は正答率が70%を超えているが、記述式になると正答率が30%に満たない結果となった。 ・県ステップアップテストの資料の活用問題では、正答率が49%だった。読み取ったことを条件に合った形で記述する問題で誤答が多く、無回答も目立った。 ・2月に実施したアンケート調査では、「目的に応じて資料から情報を収集することができる」と感じている教員の割合は、年度当初より22%増加した。また、ペア学習やグループ学習を肯定的に捉えている生徒の割合は97%と高い。他者の意見と比較したり、参考にしたりすることによって、考えを広げたり、深めたりすることができると言える。	・課題解決のための必要な情報を収集する力を身に付けさせるために、複数の資料を正確に読み取り、言語化してまとめる学習の場面を増やす。 ・付箋やホワイトボードなどを効果的に使い、自分の考えを記述する場面を増やす。 ・ペア学習やグループ学習で、根拠をもって自分の意見を伝える機会を増やす。また、他者の意見を聞き、高め合ったり、磨き合ったりする交流活動の場を設定する。 ・手引やモデルを作成するなど教材の工夫によって、苦手意識がある生徒の抵抗感を低減させるように努める。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習規律を守り、落ち着いた態度で授業に取り組むことができる。家庭学習の習慣が定着してきており、与えられた課題を期限までに仕上げられる生徒が多い。 ●自分で課題や目標を設定するなど、自分で考えて学習に取り組むことを苦手とする傾向がある。また、難しいことにも失敗を恐れずに挑戦することに課題がある。	・自分で課題を見つけ、課題解決に向けて、主体的に学習に取り組むことができる。 ・難しいことにも失敗を恐れずに挑戦することで、学ぶことの楽しさや課題を解決した達成感を味わい、次の目標設定につなげることができる。	・生徒の興味・関心を高め、主体的に学びに向かう力を引き出すために、導入を工夫したり、ICTを活用したりして、単元を構想・展開する。 ・生徒が見通しをもって学習するために「今日のゴール・まとめ」カードを活用したり、学習成果を実感できるように教材を工夫したりして、達成感を味わわせる。 ・小さな成功体験を積み重ねる場面を増やし、教員の肯定的な声かけを通して、自信を深めさせる。	・校内オープンクラスでの振り返りシートを生かした授業を展開する。 ・教員間で授業構想やアイデアを共有する。	・学校評価アンケートで、82%の生徒が「私は、学習や生活の目標を立て、前向きに実行している」と回答した。 ・2月に実施したアンケート調査では、「苦手な課題にもあきらめずに取り組むこと」や「難しいことにも失敗を恐れずに挑戦すること」に課題があると感じている教員の割合が30%を上回った。年度当初よりも15%減ったものの、成功体験を積み重ねる場面の設定や、教員の肯定的な声かけなど今後も継続した取り組みが必要である。 ・校内オープンクラスや授業研究会を通して、自らの授業を振り返ったり、他の教員からアイデアをもらったりすることができ、授業改善につなげることができた。	・生徒の興味・関心を高めるために、導入を工夫したり、新しく取り入れられるタブレットPCを活用したりして、単元を構想・展開する。 ・各教科において、「今日のゴール・まとめ」カードを活用したり、学んだことを振り返る場を工夫したりすることで、生徒が学習成果を実感し、自己肯定感を高められるようにする。 ・校内オープンクラスや校内研修を通して、教員間で授業構想やアイデアを共有し、生徒が主体的に学ぶ授業づくりに努める。

令和2年度 学力向上ロードマップ

